

## 海外安全官民協力会議 第一回幹事会開催概要

1. 日時及び場所 平成15年9月19日 三田共用会議所A会議室
2. 出席者 幹事会メンバー 20名(3名欠席)  
外務省 邦人保護課長他7名
3. 議事要旨

### 議題1 幹事会の運営について

1. 本幹事会の基本的な性格づけとして「海外安全・危機管理の専門家が自由闊達で忌憚のない情報交換・意見交換を行い、互いの知識を深める場」とすることで合意した。
2. 幹事会で取り上げる議題の基本的事項として、「その時々海外安全対策上の重要案件となっている地域情勢(イラク情勢など)や特定事項(テロ対策、SARS対策等)」、「官民相互に協力して取り組むべき政策的課題」とすることで合意した。
3. 幹事会による政策提案は本会合に諮り、本会合における合意を経て具体的な取り組みに着手することで合意した。
4. 幹事会の運営方法を以下の通りとすることで合意した。
  - (1) 開催頻度 原則2カ月に一回。その他、緊急時には随時開催する。
  - (2) 座長 邦人保護課長と日立製作所・小島リスク対策部長の共同座長とする。
  - (3) 今後想定される議題  
「テロ情勢と対策」、「SARS対策」、「誘拐対策」、「安否確認システムの構築」など。その他、各メンバーが提案し座長が議題を決定する。

### 議題2 イラクを中心とした中東の治安情勢について

1. 外務省からの説明
  - (1) イラク情勢  
現在のイラクの治安情勢のキーワードは、「流動的」、「不透明」、「不安の継続」である。地域的に見ても、これまで比較的安全とされていた南部地域の治安が悪化している。米軍に対する武装攻撃の担い手に変化が見られる。7月までは、元軍人等による単発的な攻撃が中心であったが、8月から9月

にかけては、元軍人だけでなく一般人と思われる者が、銃器や簡易な爆弾を用いて攻撃を行うようになっている。また、攻撃の対象も変化しており、これまでは米英軍等の占領軍を主に対象としていたが、現在は、これに加えてパイプライン、電力、送水施設等の民間施設を攻撃対象とすることが多くなっている。現状から判断すれば、近い将来、治安が回復する見込みは少なく、この状況が当分の間続くであろう。

## (2) イスラエル情勢

イスラエル軍がハマス等過激派幹部の暗殺を繰り返し、パレスチナ側がこれへの報復として自爆テロを繰り返す、この連鎖を断ち切れないうちに、中東和平は不安定なものとなっている。現状から判断すれば、治安情勢がさらに悪化して、今後泥沼化する恐れさえある。

2. 上記の説明を受け、メンバー間で中東地域の今後の治安情勢の動向及び危険情報の見通し等について意見交換を行った。

以上